

テーマ 1 簿記一巡の手続

重要度 ★★★

簿記とは、企業が(1)一事業年度においてどれだけ儲かったか（損益計算）及び(2)決算時点における財産の有高はいくらか（財産管理）を明らかにする目的で、企業の営業活動による財産の増減変化を帳簿に記入することをいう。

具体的には、取引について仕訳帳で仕訳を行い、総勘定元帳の各勘定へ転記し、期末に決算を行って帳簿を締め切り、財務諸表を作成するという一連の行為を、每期、繰り返して行うことである。この一連の手続を「簿記一巡の手続」という。

なお、簿記一巡の手続には、原則法である「大陸式簿記法」と簡便法である「英米式簿記法」の2つの方法がある。

このテーマの学習内容

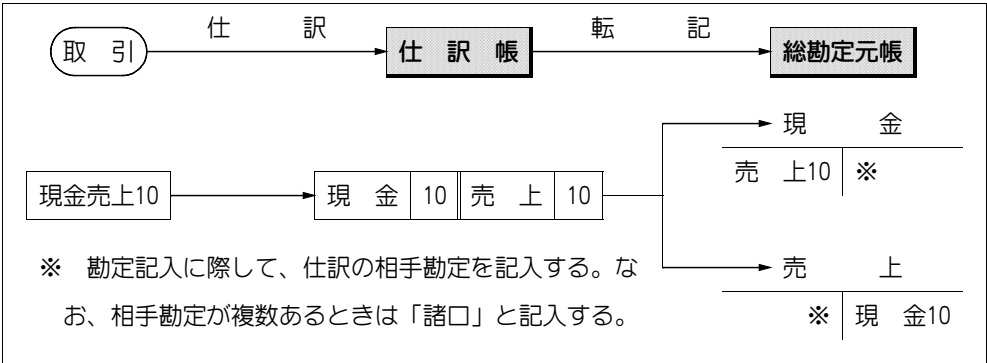
テーマ番号	学 習 内 容	レギュラーコース	完結・速修コース
1-1	大陸式簿記法	No.1 第1回	No.1 第1回
1-2	開始手続	No.1 第1回	No.1 第1回
1-3	営業手続	No.1 第1回	No.1 第1回
1-4	決算手続	No.1 第1回	No.1 第1回
1-5	決算整理	No.1 第1回	No.1 第1回
1-6	決算振替と勘定の締切	No.1 第2回	No.1 第1回
1-7	財務諸表の作成	No.1 第2回	No.1 第1回
1-8	英米式簿記法 ※	No.1 第2回	No.1 第1回
1-9	費用・収益の見越・繰延 ※	No.1 第2回	No.1 第2回

※ 上記論点は、日商簿記検定試験3級及び簿記入門Ⅰ・Ⅱで既に学習済みの内容となります。

1 - 1 大陸式簿記法

1 仕訳と転記

簿記の目的は、すべての取引を借方要素と貸方要素に分解して勘定に記録し、最終的に企業の財政状態と経営成績を明らかにすることにある。ただし、取引を勘定に直接記録しようとすると記録ミスが生じやすいため、勘定に記録する前に、取引を(1)記録すべき勘定科目、(2)借方・貸方の別及び(3)金額に分解し（これを「仕訳」という。）、その結果を勘定に記録することとなる（これを「転記」という。）。なお、仕訳を行う帳簿を「仕訳帳」といい、すべての勘定が設けられている帳簿を「総勘定元帳」という。



2 簿記一巡の手続

大陸式簿記法とは、記帳原則に忠実な簿記法であり、総勘定元帳への記録をすべて仕訳帳における仕訳を転記することにより行う。なお、大陸式簿記法には、「純大陸式簿記法」と「準大陸式簿記法」があるが、本試験での重要度及び効率的な学習を行うという観点から、後者により解説を行う。

		帳簿上の手続		帳簿外の手続	
		仕 訳 帳	総勘定元帳	試 算 表	財 務 諸 表
開 始 手 続	開始仕訳	→	転 記		
	再振替仕訳	→	転 記		
営 業 手 続	営業仕訳	→	転 記		
	決算整理仕訳	→	転 記	→ 決算整理前T/B	
決 算 手 続	決算振替仕訳	→	転 記	→ 決算整理後T/B	
	(残高振替仕訳)	→	転 記		
		→ 〃・〃			

<メ モ>

1 - 2 開始手続

1 開始手続

開始手続とは、期首において営業手続に先立って行われる手続であり、次に示す開始仕訳・転記及び再振替仕訳・転記からなる。

2 開始仕訳・転記

期首における勘定残高を記帳する手続であり、資産勘定は負債勘定及び純資産（資本）勘定を相手勘定として、負債勘定及び純資産（資本）勘定は資産勘定を相手勘定として会計処理を行う。

なお、開始仕訳の相手勘定は複数になることが通常であるため、摘要欄には「諸口」と記入するが、その内容を明確にするために「前期繰越」と記入する場合もある。

(借) 資 産 勘 定	×××	(貸) 負 債 勘 定	×××
		純資産（資本）勘定	×××

3 再振替仕訳・転記

期首における経過勘定（前払費用・未払費用・前受収益・未収収益）を費用勘定及び収益勘定に振り戻す手続であり、開始仕訳・転記に続けて行われる。

(借) 費 用 勘 定	×××	(貸) 前 払 費 用	×××
(借) 未 払 費 用	×××	(貸) 費 用 勘 定	×××
(借) 前 受 収 益	×××	(貸) 収 益 勘 定	×××
(借) 収 益 勘 定	×××	(貸) 未 収 収 益	×××



研 究 純大陸式簿記法

純大陸式簿記法では、開始仕訳にあたり開始残高勘定を設定して会計処理を行う。その場合の開始仕訳は次に示すとおりである。

(借) 資 産 勘 定	×××	(貸) 開 始 残 高	×××
(借) 開 始 残 高	×××	(貸) 負 債 勘 定	×××
		純資産（資本）勘定	×××

設 例

期首（x 1 年 4 月 1 日）における勘定残高は、次に示すとおりである。

- (1) 資産勘定：現 金 4,500円、繰越商品 500円
 (2) 負債勘定：未払営業費 100円
 (3) 純資産（資本）勘定：資 本 金 4,900円

解 説（単位：円）

1 開始仕訳

現 金	4,500	未 払 営 業 費	100
繰 越 商 品	500	資 本 金	4,900

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 諸	□ 4,500		4/1 諸 □ 100
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 諸	□ 500		4/1 諸 □ 4,900

2 再振替仕訳

未 払 営 業 費	100	営 業 費	100
-----------	-----	-------	-----

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 諸	□ 4,500	4/1 営 業 費 100	4/1 諸 □ 100
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 諸	□ 500		4/1 諸 □ 4,900
営 業 費			
	4/1 未払営業費 100		

➡トレーニング 問題 1

1 - 3 営業手続

■ 営業手続

営業手続とは、期中において営業取引を記帳する手続であり、営業取引を仕訳帳に仕訳して総勘定元帳へ転記するという一連の手続の繰り返しである。

設 例

期中（x 1 年 4 月 1 日～x 2 年 3 月 31 日）における営業取引は、次に示すとおりである。

- (1) 商品4,000円を現金で仕入れた。
- (2) 商品6,000円（売価）を現金で売り上げた。
- (3) 営業費1,750円を現金で支払った。

解 説（単位：円）

3 営業仕訳

(1)	仕	入	4, 000	現	金	4, 000	
(2)	現	金	6, 000	売	上	6, 000	
(3)	営	業	費	1, 750	現	金	1, 750

現 金			未 払 営 業 費		
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000		4/1 営 業 費 100	4/1 諸 口 100	
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750				
繰 越 商 品			資 本 金		
4/1 諸 口 500				4/1 諸 口 4,900	
仕 入			売 上		
(1) 現 金 4,000				(2) 現 金 6,000	
営 業 費					
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100				

※ 営業取引については、日付の代わりに取引番号を記載している。

1 - 4 決算手続

1 決算手続

決算手続とは、期末において当期純利益及び財産有高を算定する手続であり、その流れは次に示すとおりである。

- (1) 決算整理前試算表の作成
- (2) 決算整理
- (3) 決算整理後試算表の作成
- (4) 決算振替及び勘定の締切
 - ① 収益及び費用の損益勘定への振替
 - ② 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替
 - ③ 資産、負債及び純資産（資本）の残高勘定への振替
- (5) 財務諸表の作成

2 決算整理前試算表

簿記では、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行われたか否かを検証するため、一定時点において総勘定元帳に設けられているすべての勘定の金額を集計して一覧表を作成する。この一覧表を「試算表」という。

決算にあたっては、営業手続までの記帳内容について、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行えたか否かを検証するため、「決算整理前試算表」を作成する。

設 例

決算整理前（x 2 年 3 月 31 日）における総勘定元帳は、次に示すとおりである。

現 金			未 払 営 業 費		
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000		4/1 営 業 費 100	4/1 諸 口 100	
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750				
繰 越 商 品			資 本 金		
4/1 諸 口 500				4/1 諸 口 4,900	
仕 入			売 上		
(1) 現 金 4,000				(2) 現 金 6,000	
営 業 費					
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100				

解 説（単位：円）

4 決算整理前試算表（帳簿外）

決 算 整 理 前 試 算 表					
現 金	4,750	資 本 金	4,900		
繰 越 商 品	500	売 上	6,000		
仕 入	4,000				
営 業 費	1,650				
	10,900				
					10,900

トレーニング 問題2

留意点 試算表の検証能力

決算整理前試算表を作成すると、借方合計と貸方合計が10,900円で一致するため、営業手続までの記帳内容について、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行えたことが検証できる。これを「貸借平均の原理」という。

ただし、勘定を貸借反対に記帳した場合や誤った金額を貸借同額で記帳した場合などには、貸借平均の原理により誤謬を^{ごびゅう}発見することができないため、ここに試算表の検証能力の限界が存在することとなる。



研究 試算表の種類

試算表には、(1)残高試算表、(2)合計試算表及び(3)合計残高試算表の3つのタイプがあり、それぞれ目的に応じて作成される。前設例に基づいて各試算表を比較すると次のとおりとなる。

(1) 残高試算表（勘定残高の一覧表）

(2) 合計試算表（勘定合計の一覧表）

決算整理前残高試算表(単位：円)			決算整理前合計試算表(単位：円)		
借方残高	勘定科目	貸方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計
4,750	現金		10,500	現金	5,750
500	繰越商品		500	繰越商品	
	—		100	未払営業費	100
	資本金	4,900		資本金	4,900
	売上	6,000		売上	6,000
4,000	仕入		4,000	仕入	
1,650	営業費		1,750	営業費	100
10,900	合計	10,900	16,850	合計	16,850

(3) 合計残高試算表（勘定合計及び勘定残高の一覧表）

決算整理前合計残高試算表 (単位：円)				
借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
4,750	10,500	現金	5,750	
500	500	繰越商品		
—	100	未払営業費	100	—
		資本金	4,900	4,900
		売上	6,000	6,000
4,000	4,000	仕入		
1,650	1,750	営業費	100	
10,900	16,850	合計	16,850	10,900

➡ トレーニング 問題3

<メ モ>

1 - 5 決算整理

1 決算整理

総勘定元帳の記録が正しいものであっても、期末における各勘定残高が、そのまま当期における損益の発生額や、期末における財産有高を示しているとは限らない。そこで、決算において当期における損益の発生額及び期末における財産有高を確定するため、総勘定元帳の記録を修正する手続を行う。これを「決算整理」という。決算整理には、次に示すものがある。

- (1) 売上原価の算定 (2) 棚卸資産の評価 (3) 費用・収益の見越・繰延
- (4) 貸倒引当金の設定 (5) 固定資産の減価償却 (6) 有価証券の評価 (7) 法人税等の計上

2 決算整理後試算表

決算整理について、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行えたか否かを検証するため、決算整理後における各勘定の金額を集計して試算表を作成する。この試算表を「決算整理後試算表」という。

設 例

決算整理事項は、次に示すとおりである。

- (1) 期末商品棚卸高 600円 (2) 未払営業費 150円
-

解 説 (単位：円)

5 決算整理仕訳

(1) 売上原価の算定

仕	入	500	繰	越	商	品	500
繰	越	商	品	600	仕	入	600

(2) 営業費の見越計上

営	業	費	150	未	払	営	業	費	150
---	---	---	-----	---	---	---	---	---	-----

現 金			未 払 営 業 費		
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000		4/1 営 業 費 100	4/1 諸 口 100	
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750			3/31 営 業 費 150	
繰 越 商 品			資 本 金		
4/1 諸 口 500	3/31 仕 入 500			4/1 諸 口 4,900	
3/31 仕 入 600					
仕 入			売 上		
(1) 現 金 4,000	3/31 繰越商品 600			(2) 現 金 6,000	
3/31 繰越商品 500					
営 業 費					
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100				
3/31 未払営業費 150					

6 決算整理後試算表（帳簿外）

決 算 整 理 後 試 算 表									
現		金	4,750	未	払	営	業	費	150
繰	越	商	品	600	資		本	金	4,900
仕		入	3,900	売				上	6,000
営		業	費	1,800					
			11,050	11,050					

➡ トレーニング 問題4～問題5

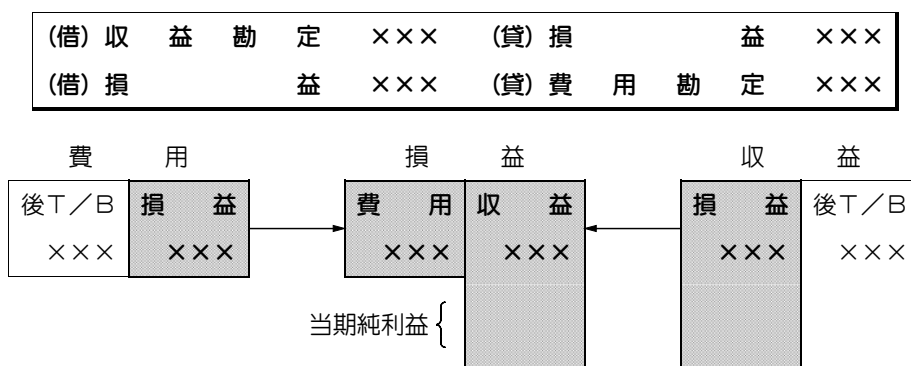
1 - 6 決算振替と勘定の締切

■ 決算振替と勘定の締切

(1) 収益及び費用の損益勘定への振替

決算整理後における収益及び費用の各勘定残高を**損益勘定**に振り替え、当期純利益を算定する。なお、損益勘定は当期純利益の計算要素を一覧する機能を有するため、相手勘定が複数ある場合でも摘要欄に「諸口」とは記入せず、すべての相手勘定を記入することとなる。

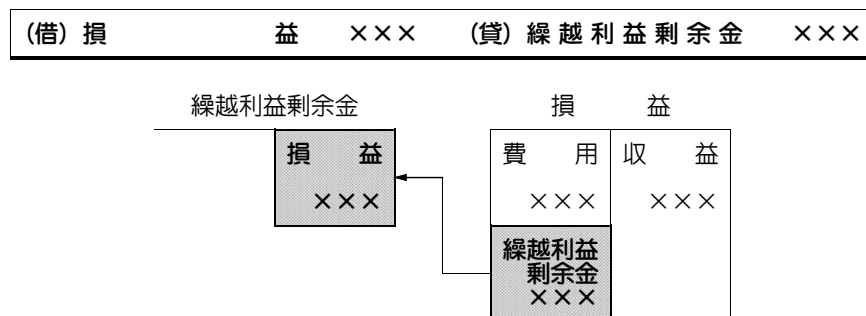
また、この振替処理により、収益及び費用の各勘定残高がゼロとなるため、勘定の締切を行う。



(2) 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

損益勘定の残高（当期純利益）を**繰越利益剰余金勘定**（個人企業の場合は資本金勘定）へ振り替える。なお、繰越利益剰余金は、後に株主配当金などとして処分される。

また、この振替処理により、損益勘定の残高がゼロとなるため、勘定の締切を行う。



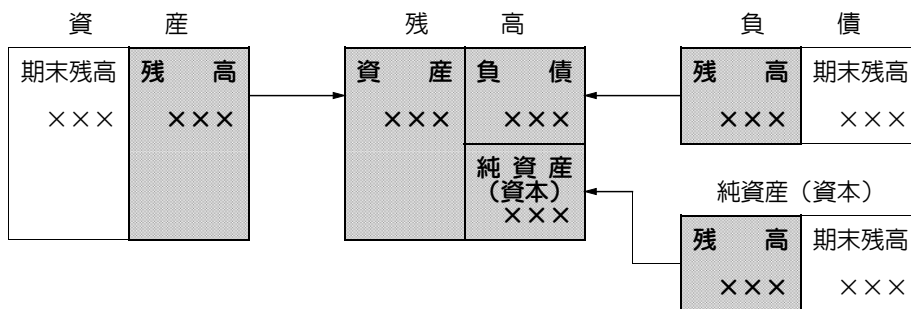
(3) 資産、負債及び純資産（資本）の残高勘定への振替

資産、負債及び純資産（資本）の各勘定残高を**残高勘定**に振り替え、期末財産有高が貸借平均することを確認する。

なお、残高勘定は期末財産有高を一覧する機能を有するため、相手勘定が複数ある場合でも摘要欄に「諸口」とは記入せず、すべての相手勘定を記入することとなる。

また、資産、負債及び純資産（資本）の各勘定の摘要欄には「残高」と記入するが、その内容を明確にするために「次期繰越」と記入する場合もある。さらに、この振替処理により、資産、負債及び純資産（資本）の各勘定残高がゼロとなるため、勘定の締切を行う。

(借) 残 高	×××	(貸) 資 産 勘 定	×××
(借) 負 債 勘 定	×××	(貸) 残 高	×××
純資産（資本）勘定	×××		



研究 純大陸式簿記法

純大陸式簿記法では、資産、負債及び純資産（資本）の振替にあたり**閉鎖残高勘定**を設定して会計処理を行う場合がある。その場合の資産、負債及び純資産（資本）の閉鎖残高勘定への振替は、次に示すとおりである。

(借) 閉 鎖 残 高	×××	(貸) 資 産 勘 定	×××
(借) 負 債 勘 定	×××	(貸) 閉 鎖 残 高	×××
純資産（資本）勘定	×××		

設 例

決算整理後（x 2 年 3 月 31 日）における総勘定元帳は、次に示すとおりである。

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000	4/1 営 業 費 100	4/1 諸 口 100
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750		3/31 営 業 費 150
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 諸 口 500	3/31 仕 入 500		4/1 諸 口 4,900
3/31 仕 入 600			
仕 入		売 上	
(1) 現 金 4,000	3/31 繰越商品 600		(2) 現 金 6,000
3/31 繰越商品 500			
営 業 費			
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100		
3/31 未払営業費 150			



解説 (単位: 円)

7 決算振替仕訳

(1) 収益及び費用の損益勘定への振替

売	上	6,000	損	益	6,000
損	益	5,700	仕	入	3,900
			営	業	費
					1,800

損	益	売	上
	3/31 売 上 6,000	3/31 損 益 6,000	(2) 現 金 6,000

仕	入	損	益
(1) 現 金 4,000	3/31 繰越商品 600	3/31 仕 入 3,900	3/31 売 上 6,000
3/31 繰越商品 500	" 損 益 3,900	" 営 業 費 1,800	
4,500	4,500		
営	業	費	
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100		
3/31 未払営業費 150	3/31 損 益 1,800		
1,900	1,900		

(2) 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

損	益	300	繰 越 利 益 剰 余 金	300
---	---	-----	---------------	-----

繰越利益剰余金	損	益
3/31 損 益 300	3/31 仕 入 3,900	3/31 売 上 6,000
	" 営 業 費 1,800	
	" 繰越利益剰余金 300	
	6,000	6,000

簿記一巡の手続

(3) 資産、負債及び純資産（資本）の残高勘定への振替

残	高	5,350	現	金	4,750			
			繰	越	商	品	600	
未	払	営	業	費	150	残	高	5,350
資	本	金	4,900					
繰	越	利	益	剰	余	金	300	

現 金		繰 越 商 品	
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000	3/31 現 金 4,750	
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750	〃 繰越商品 600	
	3/31 残 高 4,750		
<u>10,500</u>	<u>10,500</u>		
繰 越 商 品			
4/1 諸 口 500	3/31 仕 入 500		
3/31 仕 入 600	〃 残 高 600		
<u>1,100</u>	<u>1,100</u>		

残 高		未 払 営 業 費	
3/31 現 金 4,750	3/31 未払営業費 150	4/1 営 業 費 100	4/1 諸 口 100
〃 繰越商品 600	〃 資 本 金 4,900	3/31 残 高 150	3/31 営 業 費 150
	〃 繰越利益剰余金 300	<u>250</u>	<u>250</u>
<u>5,350</u>	<u>5,350</u>		
		資 本 金	
		3/31 残 高 4,900	4/1 諸 口 4,900
		繰越利益剰余金	
		3/31 残 高 300	3/31 損 益 300

➡ トレーニング 問題6

<メ モ>

1 - 7 財務諸表の作成

1 財務諸表の作成

企業は決算後において、外部の利害関係者に財務状況を報告するため、損益計算書及び貸借対照表などの財務諸表を作成する。なお、損益計算書は損益勘定、貸借対照表は残高勘定を基に作成するが、作成方法の詳細については、「財務諸表等規則」などの規定により定められている（詳しくは財務諸表論で学習する。）。

2 財務諸表の形式

財務諸表の形式には、勘定式と報告式の2つの形式があり、勘定式がT勘定の形式であるのに対して、報告式は表示科目を縦一列に列挙する形式となっている。

(1) 勘定式

損 益 計 算 書					貸 借 対 照 表							
自×1年4月1日		至×2年3月31日			×2年3月31日現在							
費	用	××	収	益	××	資	産	××	負	債	××	
当期純利益		××							資	本	金	××
		××									繰越利益剰余金	
								××				××

(2) 報告式

損 益 計 算 書				貸 借 対 照 表			
自×1年4月1日		至×2年3月31日		×2年3月31日現在			
I	収益		××	資 産 の 部			
II	費用	△	××	資 産			××
	当期純利益		××	資産合計			××
				負 債 の 部			
				負債			××
				負債合計			××
				純資産の部			
				資本金			××
				繰越利益剰余金			××
				純資産合計			××
				負債及び純資産合計			××

設 例

損益勘定及び残高勘定に基づいて、損益計算書及び貸借対照表を作成しなさい。

損	益	残	高
3/31 仕 入 3,900	3/31 売 上 6,000	3/31 現 金 4,750	3/31 未払営業費 150
〃 営 業 費 1,800		〃 繰越商品 600	〃 資 本 金 4,900
〃 繰越利益剰余金 300			〃 繰越利益剰余金 300
<u>6,000</u>	<u>6,000</u>	<u>5,350</u>	<u>5,350</u>

解 説 (単位：円)

(1) 勘定式

損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日		x 2 年 3 月 31 日 現在	
売 上 原 価 3,900	売 上 高 6,000	現金及び預金 4,750	未 払 費 用 150
販売費及び一般管理費 1,800		商 品 600	資 本 金 4,900
当期純利益 300			繰越利益剰余金 300
<u>6,000</u>	<u>6,000</u>	<u>5,350</u>	<u>5,350</u>

(2) 報告式

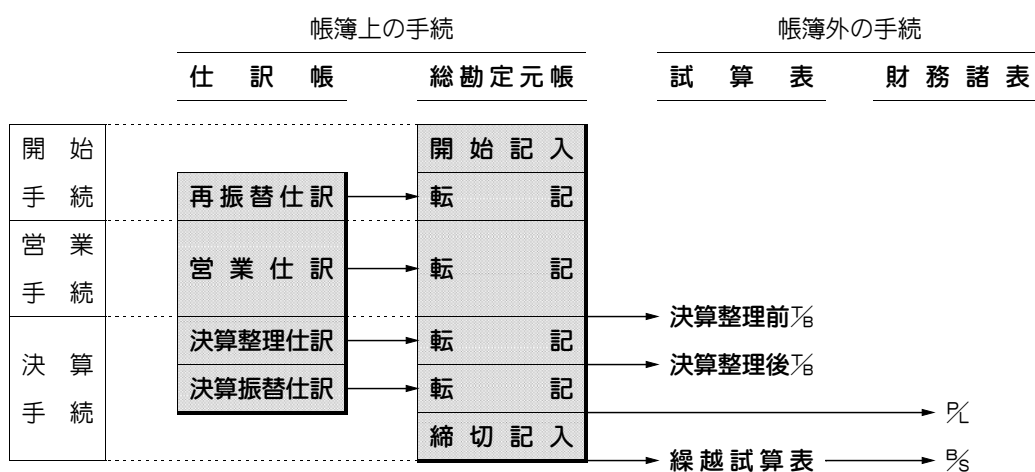
損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日		x 2 年 3 月 31 日 現在	
I 売上高 6,000		資 産 の 部	
II 売上原価 △ 3,900		現金及び預金 4,750	
売上総利益 2,100		商品 600	
III 販売費及び一般管理費 △ 1,800		資産合計 <u>5,350</u>	
当期純利益 <u>300</u>		負 債 の 部	
		未払費用 150	
		負債合計 150	
		純資産の部	
		資本金 4,900	
		繰越利益剰余金 300	
		純資産合計 <u>5,200</u>	
		負債及び純資産合計 <u>5,350</u>	

🔄 トレーニング 問題7～問題8

1 - 8 英米式簿記法

■ 簿記一巡の手続

大陸式簿記法に対して、期首及び期末の記帳手続を簡便にした簿記法を英米式簿記法という。英米式簿記法では、期首及び期末の資産・負債・純資産（資本）の残高について、仕訳帳における仕訳を省略して総勘定元帳へ直接「開始記入（前期繰越）」及び「締切記入（次期繰越）」を行う。また、締切記入が正しく行われたかどうかを検証するため、資産・負債・純資産（資本）の次期繰越高により繰越試算表を作成し、これに基づいて貸借対照表を作成する。



**設 例** 開始手続

期首（x 1 年 4 月 1 日）における勘定残高は、次に示すとおりである。英米式簿記法により開始手続を行いなさい。

- (1) 資産勘定：現 金 4,500円、繰 越 商 品 500円
- (2) 負債勘定：未払営業費 100円
- (3) 純資産（資本）勘定：資 本 金 4,900円

**解 説**（単位：円）**1 開始仕訳**

仕 訳	な し		
-----	-----	--	--

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 前期繰越	4,500	4/1 前期繰越	100
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前期繰越	500	4/1 前期繰越	4,900

2 再振替仕訳

未 払 営 業 費	100	営 業 費	100
-----------	-----	-------	-----

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 前期繰越	4,500	4/1 営 業 費	100
4/1 前期繰越	500	4/1 前期繰越	100
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前期繰越	500	4/1 前期繰越	4,900
営 業 費			
		4/1 未払営業費	100



設 例 決算振替、勘定の締切及び繰越試算表の作成

決算整理後（x 2 年 3 月 31 日）における総勘定元帳は、次に示すとおりである。英米式簿記法により決算振替、勘定の締切及び繰越試算表の作成を行いなさい。

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 前期繰越 4,500	(1) 仕 入 4,000	4/1 営 業 費 100	4/1 前期繰越 100
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750		3/31 営 業 費 150
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前期繰越 500	3/31 仕 入 500		4/1 前期繰越 4,900
3/31 仕 入 600			
仕 入		売 上	
(1) 現 金 4,000	3/31 繰越商品 600		(2) 現 金 6,000
3/31 繰越商品 500			
営 業 費			
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100		
3/31 未払営業費 150			



解説 (単位: 円)

1 決算振替仕訳

(1) 収益及び費用の損益勘定への振替

売	上	6,000	損	益	6,000
損	益	5,700	仕	入	3,900
			営	業	費
					1,800

損	益	売	上
	3/31 売 上 6,000	3/31 損 益 6,000	(2) 現 金 6,000

仕	入	損	益
(1) 現 金 4,000	3/31 繰越商品 600	3/31 仕 入 3,900	3/31 売 上 6,000
3/31 繰越商品 500	" 損 益 3,900	" 営 業 費 1,800	
4,500	4,500		
営	業	費	
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100		
3/31 未払営業費 150	3/31 損 益 1,800		
1,900	1,900		

(2) 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

損	益	300	繰 越 利 益 剰 余 金	300
---	---	-----	---------------	-----

繰越利益剰余金	損	益
3/31 損 益 300	3/31 仕 入 3,900	3/31 売 上 6,000
	" 営 業 費 1,800	
	" 繰越利益剰余金 300	
	6,000	6,000

簿記一巡の手続

2 資産、負債及び純資産（資本）勘定の締切

仕 訳 な し			
---------	--	--	--

現 金	
4/1 前期繰越 4,500	(1) 仕 入 4,000
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750
	3/31 次期繰越 4,750
<u>10,500</u>	<u>10,500</u>

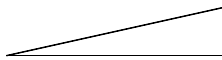
未 払 営 業 費	
4/1 営 業 費 100	4/1 前期繰越 100
3/31 次期繰越 150	3/31 営 業 費 150
<u>250</u>	<u>250</u>

繰 越 商 品	
4/1 前期繰越 500	3/31 仕 入 500
3/31 仕 入 600	” 次期繰越 600
<u>1,100</u>	<u>1,100</u>

資 本 金	
3/31 次期繰越 4,900	4/1 前期繰越 4,900

繰越利益剰余金	
3/31 次期繰越 300	3/31 損 益 300

3 繰越試算表（帳簿外）

繰 越 試 算 表			
現 金	4,750	未 払 営 業 費	150
繰 越 商 品	600	資 本 金	4,900
		繰 越 利 益 剰 余 金	300
	<u>5,350</u>		<u>5,350</u>

**設 例** 財務諸表の作成

損益勘定及び繰越試算表に基づいて、損益計算書及び貸借対照表を作成しなさい。

損		益	繰越試算表	
3/31 仕入	3,900	3/31 売上	現金	4,750
" 営業費	1,800		繰越商品	600
" 繰越利益剰余金	300			
	<u>6,000</u>			<u>5,350</u>
		<u>6,000</u>		

**解 説** (単位：円)

(1) 勘定式

損益計算書		貸借対照表	
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日		x 2 年 3 月 31 日現在	
売上原価	3,900	現金及び預金	4,750
販売費及び一般管理費	1,800	商品	600
当期純利益	300		
	<u>6,000</u>		<u>5,350</u>

(2) 報告式

損益計算書		貸借対照表	
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日		x 2 年 3 月 31 日現在	
I 売上高		資産の部	
	6,000	現金及び預金	4,750
II 売上原価		商品	600
	<u>△ 3,900</u>	資産合計	<u>5,350</u>
売上総利益			
	2,100	負債の部	
III 販売費及び一般管理費		未払費用	150
	<u>△ 1,800</u>	負債合計	<u>150</u>
当期純利益			
	<u>300</u>	純資産の部	
		資本金	4,900
		繰越利益剰余金	300
		純資産合計	<u>5,200</u>
		負債及び純資産合計	<u>5,350</u>